

再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名 能越自動車道 一般国道470号 輪島道路	事業 区分	一般国道	事業 主体	国土交通省 北陸地方整備局
起終点 自：石川県輪島市三井町本江 至：石川県輪島市三井町洲衛			延長 4.7 km	
事業概要 一般国道470号輪島道路は、「高規格幹線道路網の形成」「災害に強いネットワークの形成」「アクセス時間の短縮による物流の活性化・観光圏域の拡大」「第三次医療施設へのアクセス向上」を主な目的とした延長4.7kmの事業である。				
H18年度事業化		H11年度都市計画決定		H22年度用地着手
全体事業費		約150億円		事業進捗率
				5%
計画交通量		6,500台/日		
費用対効果 分析結果	B/C	総費用		総便益
	(事業全体) 1.2	(残事業)/(事業全体) 137 / 147 億円 （事業費：112/122億円 維持管理費：25/25億円）		(残事業)/(事業全体) 169 / 169 億円 （走行時間短縮便益：134/134億円 走行経費減少便益：23/23億円 交通事故減少便益：12/12億円）
	(残事業) 1.2			基準年 平成23年
感度分析の結果 (事業全体) 交通量 : B/C= 0.98～1.4(交通量±10%) (残事業) 交通量 : B/C= 1.1～1.5(交通量±10%) 事業費 : B/C= 1.1～1.2(事業費±10%) 事業費 : B/C= 1.1～1.3(事業費±10%) 事業期間 : B/C= 1.1～1.2(事業期間±20%) 事業期間 : B/C= 1.2～1.3(事業期間±20%)				
事業の効果等 定性的な効果 ①第一次緊急輸送道路の強化 ・災害に強い道路ネットワークが形成される。 ②迂回発生時の代替路線を形成 ・迂回発生時の代替路が形成され、リダンダンシーが確保される。 ③第三次医療施設へのアクセス向上 ・能登唯一の第三次医療施設である能登総合病院へのアクセス向上が期待される。 ④バス路線の利便性向上 ・輪島市と金沢市や能登空港等を結ぶバスの、定時性確保や安全性・快適性向上が期待される。 ⑤能登空港へのアクセス向上 ・輪島市から能登空港へのアクセス向上が期待される。 ⑥輪島港との連携 ・輪島港と能登空港の連携が向上し、観光ルート of 広域化が期待される。 ⑦主要な観光地へのアクセス向上 ・輪島朝市や輪島温泉郷等の観光地へのアクセス向上や、和倉温泉等を結ぶ観光周遊ルートの強化等が期待される。 ⑧他機関との連携プログラムに関する効果 ・石川県の長期構想「県土ダブルラダー 結いの道」整備構想を支援				
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： ・輪島道路は、災害時のライフライン確保、救助隊の迅速な能登半島への到達の観点や、医療面からみた輪島の「命を繋ぐ道」であるため、能越自動車道輪島区間建設促進協議会から整備推進の要望を受けている。				
県知事の意見： ・事業継続に同意する。 ・今後とも、コスト縮減に努め、早期に効果が発現されるよう整備促進に格段の配慮を願いたい。 ・能越自動車道の日も早い全線供用が重要であることから、引き続き国直轄事業として事業を継続し、コスト縮減に努めつつ、着実に整備を進めていただきたい。				

事業評価監視委員会の意見

- ・ 審議の結果、再評価及び対応方針（原案）の「事業継続」は妥当である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・ H18年6月に能越自動車道能登空港IC～穴水ICが供用

事業の進捗状況、残事業の内容等

- 事業の進捗状況：平成23年度末(予定)で事業費8億円、進捗率5%、そのうち用地補償費は2億円で、進捗率13%
- 残事業の内容：(仮称)三井ICから能登空港IC間の暫定2車線整備

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・ 今後は、引き続き地元との設計協議や用地調査等を進め、早期の完成を目指す。

施設の構造や工法の変更等

- ・ 施工にあたっては、建設発生土の有効活用等により、コスト縮減を図る。

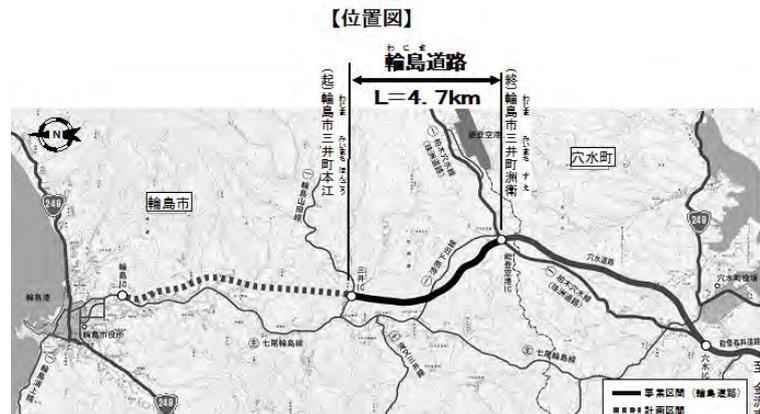
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及びコスト縮減等の内容、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。